

東急不動産は東京都心部で大型開発を加速する。2020年までの完成を目指し、原宿に商業を核とする大型施設を建設する。総事業費は400億円程度になる見込みで、渋谷駅を中心とする「広域渋谷圏」の魅力を高め、訪日客や20〜30代を取り込む。三井不動産、三菱地所の大手2社が都心、郊外双方で商業施設を広げる中で、東急不動産は得意とする都心部に経営資源を投入し、収益基盤の確立を急ぐ。

訪日客や若者取り込み

渋谷区の再開発地域はJR原宿駅近くの幹線道路に面しており、面積は約3千平方メートル。新設する建物は地上10階建て規模で、面積は2万平方メートルを超える見通しだ。複合ビ

ル「コープオリンピアアネックス」を持つ東急不動産と周辺の地権者が既存ビルを解体し、18年度に着工する。

テナントにはファッション・雑貨、飲食店が入る見通し。周辺には同社が開発した商業施設「東急プラザ表参道原宿」や

「キュープラザ原宿」がある。新施設ではこうした既存施設との回遊性を高めるようにもする。

デベロッパー各社は潤沢な投資マネーを追い風に再開発を進めている。商業分野にも強い三井不動産、三菱地所は都心部に商業ビルを構えるとともに、郊外でもショッピングセンターなどを設置してきた。

東急不動産が新商業施設

渋谷・原宿で大型再開発

東急不動産はグループ合わせた商業事業の売上高が366億円と三井不

動産の5分の1程度にとどまる。そのため、16年度までの3年間で都心部の再開発などに2千億円を投じる計画。16年3月には空港型免税店が入る

「東急プラザ銀座」（東京・中央）を開業する。グループの東京急行電鉄沿線でも東急電鉄とともに「三子玉川ライズ」（同・世田谷）を設けた。



東急不動産は商業施設開発を加速している

渋谷・原宿	2012年	商業施設「東急プラザ表参道原宿」開業
	15年	商業施設「キュープラザ原宿」開業
	18年度	渋谷駅西口で地上18階建て複合ビルが完成
	20年度	渋谷駅南側で地上37階建て複合ビルなどが完成
渋谷・原宿以外	今年3月	銀座で「東急プラザ銀座」が開業
	19年度	竹芝で地上39階建て複合ビルなどが完成

平方メートル（丸ビル約2・2棟分）を超える見通しで、人口集中地域で地盤を固めている。

東急の博物館
来月改装開業

シミュレーター拡充

東京急行電鉄は28日、「電車とバスの博物館」（川崎市）を2月19日に改装開業すると発表した。運転シミュレーターを拡充したのが特徴で、新規導入した親子向けでは、子どもが好みの色にデザインした車両をCG（コンピューターグラフィックス）上に走らせることが可能だ。